

新山協ニュース

会長 藤井 信
新潟県山岳協会
長岡市学校町3-11-7
TEL 0258-32-4835

事務局 杉本 敏
長岡市大積町2-乙735甲
TEL 0258-47-0368

編集者 遠藤家之進正和
上越市本城5-4-102
TEL 0255-26-9986

自然公園指導員研修会並びに 第40回自然公園大会に参加して

分水山岳会

山田 一 男

8月3日～5日、環境庁自然公園指導員研修会が、富山県立山麓の厚生年金センターで開催された。県推薦の弥彦渡辺富衛氏と共に参加。14時30分開講式北海道、沖縄石垣島からの70余名、オリエンテーションの後富山大学長井真隆氏の「立山の自然（四季）」についてのスライドを併用しての講義、中部山岳公園管理所長の管内概要紹介、自然ふれあい推進室長の指導員業務地域活動の説明などがあり、夕食後はオレゴン州立公園管理官シャラード女史の通訳を介してスライドを交いての講演、続いて自己紹介後、自由参加の懇親会にうつり、受講者同志の情報交換の場作り、各地の銘酒名菓を披露賞味しあった。

翌4日は玄関前にて全員記念撮影後、アンケート集計結果報告と、現指導員制度の改正点についての討議、また課

題となる可能性の事項に対しての分科会、活動状況発表午後からは5班に分れてテーマ1毎に審議、まとめを終えた。講評をふくめて丸2日間の研修、修了証書授与でしめくつた。

5日は第40回自然公園大会、プレイベント「国際ナチュラリストのつどい」とCWニコルス氏の基調講演があり、カナダバンフ国立公園の自然管理の問題や、わが国屋久島におけるエコツアーや富山県ナチュラリストの活動、朝日町大蓮華山保勝会の保護運動、パネルディスカッションによるフォーラム、事例発表、質疑、討論の総てを終り全員で立山アピールの採択宣言して閉会した。

15時より会場を粟巣野スポーツセンター運動広場の国立公園協会主催の第40回自然公園大会式典会場に常陸宮ご夫妻をお迎して、環境政務次官、

新年会案内

日時 1999年1月17日(日)
13時開宴
会場 新潟市笹口1-1
新潟ワシントンホテル
電話025-243-7311

会費 7,000円
申込 〒957-0056
新発田市大栄町5-8-15
田辺信行
電話0254-24-8057
ハガキにて申込願います。

理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。
役員、理事、委員各位は10時までに参加願います。

富山県知事、国立公園協会長の開会宣言、挨拶のあと、永年自然保護思想の普及、啓発にかかわった人達の表彰があり、本県から糸魚川石田国夫氏の蓮華温泉、白馬岳などの登山道の整備、補修などの功勞により、環境庁長官賞を受彰された。誠にお目出度い極み、常陸宮のお言葉があり、続いてアトラクションによる富山郷土絵巻がくりひろげられ、越中おわら保存会、大山町薬師太鼓など県民あげての高、中、小学生や園児達の「届け心の響きコンサート」など、ネイチャーシンフォニー立山讃歌で夜の行事は尽きない。次回の佐賀大会へと営火を引きつづいた。

6日8時、自然にやさしい配慮の新ハイブリットカー2台に分乗、室堂平をめざした。

富山ナチュラリスト協会員の解説付で自然観察しながら天狗平までの2時間余、弥陀ヶ原では大小さまざまな池塘が点在、池塘周囲にはモウセンゴケ、ギダチミズゴケ、ショウジョウスゲ、ワタスゲ、マガヤなどが生育している。池塘の中にはミヤマホタルイ、エゾホソイなどが生える。その姿は餓鬼が田植をした田圃と思わせ「がきの田圃」と称するようになった。しばしばカオジロトンボが見えられる。池塘が破壊され、乾性化が進行しているところにはイワイチヨウなどの侵入が見られた。

今回のテーマ（標語）の「立山で両手いっぱい大自然の記念大会を終了した。」

第22回妙高高原、24回山形蔵王大会参加当時とくらべてイベントが非常に派手になっ

たように思う。国体開催行事と同じく各県出費負担が多い問題は引き受け手がなくなる。財政再建が叫ばれて久しい、簡素化が望まれているようです。

テーピング実技講習会報告

遭難対策委員長

小林 由 夫

過日7月5日、3回目になる今年の上越地区に移し、遭対委員入沢氏の所属する柏崎山岳会のご協力を得て、柏崎市駅前の「柏崎市エネルギーホール」で開催した。

16加盟団体から37名の参加を得て、足首、ヒザを中心にしたテーピング実技講習会を10時から昼食をはさんで3時までみっちり行ないました。今年もソニー企業から野内良司講師の派遣協力を得て、同氏のていねいな指導で行なわれしました。

テーピング技術はセルフレスキューのひとつでもあり、登山中足首、ヒザ等の痛み、捻挫等の事故も多く、その際正しいテーピングにより、自力下山できることも可能です。今回、日体協C級スポーツ指導員受講者8名も参加受講カリキュラムのひとつに加えていただき感謝致します。

また、地元柏崎山岳会の事務所である大原スポーツ店からも多大なご協力、ご援助をいただき、ありがとうございました。

23日は1号機発電機(300KV A)の定期点検のため2号機(200KV A)への切り替えを行ったが、節電しても電力使用量が150~155KWに達している。幸い、太陽光発電装置がつかわり、一時的にせよ約20KWの供給を受けたので何とか乗り切れた。

30日には消化器噴射、ホースを連結して放水を含む火災訓練を実施した。3分間放水で約1800リットルの水を消費した。

J A R E 39

O D A

南極の小田隊員より、月例報告が届きましたが、主な事項をお知らせします。

4月3日、昭和基地周辺海水状況を撮影し、極地研に画像送付した。4月6日のNOAA画像で見ると、リュット・ホルム湾は完全に開水面が広がっており、氷状は中旬まで悪化の一途をたどった。下旬マイナス20度以下、微風の日が4~5日続き、ようやく海水が成長しはじめたが、28日

のAゴリで吹き流され、オングル海峡には再び水開きが生じている。

4日、旧通信棟付近に残置してあったレドーム付きインマルカブースを天測点下(電離棟前)に移動した。3月の旧施設解体片づけたより9居側と気象棟間は広く開いたが、幅広の長いドリフトの解消には至っていない。

8日、延期に延期を重ねていた島内遠足が実現し19名が参加した。島内一周を初めて行った者も多数いた。ライフ

ミラーの使い方の講習を兼ねた。

10日、38次との交代期以来不調であったレントゲン装置が衛生受信隊員の努力もあって復旧した。14日の現像でも写り具合が鮮明で一安心である。

13日、旧バーに仮置ききのビール、ワインを倉庫棟冷蔵庫に移動した。手空き総員による物資移動は4月に入っても何回か行われている。また、27日には痛んだキャベツの皮むきと箱移し替えを行った。

15日、管理棟受水槽の大掃除を行った。医療・機械隊員

16日、西オングル島において重力測定、池水採水(化学分析)が行われた。

17日にはザイル降下、22日にはザイル引き上げによるレスキュー訓練を実施した。

18日、39次隊最後の、そして南極観測隊最後の大掛かりな野焼きを行ない、焼却可能な廃棄物の処理を実施した。なお、基地焼却炉の使用は、気象観測・大気観測に影響を与えないような風向・風速条件で行うため、適日は月5~6回である。

13日、旧バーに仮置ききのビール、ワインを倉庫棟冷蔵庫に移動した。手空き総員による物資移動は4月に入っても何回か行われている。また、27日には痛んだキャベツの皮むきと箱移し替えを行った。

15日、管理棟受水槽の大掃除を行った。医療・機械隊員

23日は1号機発電機(300KV A)の定期点検のため2号機(200KV A)への切り替えを行ったが、節電しても電力使用量が150~155KWに達している。幸い、太陽光発電装置がつかわり、一時的にせよ約20KWの供給を受けたので何とか乗り切れた。

30日には消化器噴射、ホースを連結して放水を含む火災訓練を実施した。3分間放水で約1800リットルの水を消費した。

4月の一大イベントは電力計設置工事で延べ作業日数は15日に達した。そして電離棟を除き予定作業をべて無事終了した。クライマックスは22日の管理棟工事で13・15・15・00の間停電した。太陽光発電装置も何とか組み込んだ。

環境保護議定書の成立により、南極でも右肩上がりのエネルギー消費が無条件に許される状況にはない。

各観測棟、施設に電力計を設置した事で、基地の今後の計画的な電力供給に役立つはずである。

以降次号

理事会報告

期日 平成10年10月17日(土)
会場 村松町上杉川

議事

チャレンジランド杉川

1、協会加盟申込団体の審議

○吉田山岳会

会長 早川英夫

西蒲原郡吉田町東栄町

29-26

TEL 0256-92-5381

○ミズキ山の会

会長 堀川正路

西蒲原郡吉田町上町

4-14

TEL 0256-93-2632

右2団体の加盟が承認された。

2、神奈川国体の応援とカンパ協力

成年男子 25日踏査競技(S1)

26日登攀競技(C)

27日縦走競技(T1)

少年男子 25日縦走競技(T3)

26日踏査競技(S2)

27日縦走競技(T2)

3、糸魚川市のクライミングボードの管理委託と利用について

設置場所 糸魚川市民総合

体育館側壁

委託期間

平成10年10月

平成11年3月

1年間継続あり

クライミング委

員会

委員長稲田春男

糸魚川市山岳連

盟事務局

青木 弘

TEL 0255-52-3584

4、事業報告
9月11日の常務理事会から
10月12日の競技水準向上対
策事業ヒアリングまで

5、事業計画
10月17日〜18日親睦登山か
ら3月の理事会までの後期
事業について

6、平成12年度中部地区中高
年安全登山講習会(当番県
新潟)準備について

7、第33回全国高等学校体育
連盟研究大会を新潟にて開
催

期日 平成11年1月28日
(木)〜29日(金)

会場 ホテル新潟

主題 希望に満ちた体育・
スポーツ活動をめ
ざして

協会より寄付。

8、笹川財団の補助申請につ
いて

若い人達中心の事業を中心
に援助するため、協会各委
員会も申請を!!

9、分担金の納入状況報告

10、各地区遭難救助隊名簿の
変更について

今後救助隊のあり方を詰め
る。

「神奈川国体のカンパ協力」
出場者への応援としてカン
パをお願いしたところ左記の
方から協力がありましたので
報告させていただきます。
ありがとうございます。

室賀輝男④、橋本正己②、北
村猛②、土田幸雄②、藤井信
②、田辺信行②、杉本敏②、
草間雄一①、五十嵐篤雄②、
坂井厚①、平田大六②、井出
秀雄②、今成幸夫②、遠藤家
之進正和②、内藤修②、石田
國夫②

10月20日現在16万円の寄付
がありました。

1口5,000円でこれか
らも受付ておりますので、協
会事務局に振込いただければ
ありがたいです。

カムチャッカの高山植物 ⑮

むささび会 加藤 明文

ミヤマハンショウズル (キンポウゲ科)

分布：日本 東北アジア



シベリアが故郷の植物。日本でもあちこちの亜高山帯
の林内で見られるが、カムチャッカでは荒地があると平
地でもたくさんある。ホテルから車で約1時間、町をは
ずれて荒野の中を行くと我々を山へ運ぶヘリポートがあ
り、まわりに深い森があった。ものすごいヤブになって
いて、キンポウゲやヤブマメなどおもしろい植物に出会
へたが、そんななかで花をいっぱいにつけたハンショウ
ズルに会った。半鐘蔓と書き、火の見櫓の半鐘にたと
へたもの。飯豊連峰や東北の山では変種のコミヤマハン
ショウズル(三出複葉)がある。
花の色：茶紫の濃淡があり。

行事案内

●指導員研修会の案内
 新営となったスポーツセンターの施設を使つての研修会を開催しますので登山指導員各位には万難を排しての参加を。

期 日 平成10年11月15日(日)
 10時～15時
 会 場 新潟市東総合スポーツセンター
 新潟市はなみずき3-4-1
 TEL 025-272-5150

内 容 ○ウォールクライミング
 ①施設の説明
 ②ウォールクライミングについて
 ③ウォール試登
 ○講演「僕のマナスル」
 小林重一

参加費 ○技術指導委員会から
 2,500円
 申込み 11月11日(水) 必着
 〒950-0812
 新潟市豊1-11-20
 阿部信一
 TEL 025-273-1572

その他
 センターは土足厳禁のため履きを用意。
 クライミング希望者はその旨を記入のこと。
 必要用具を用意。

●第3回スポーツクライミング「信州カップ」の案内
 今年度も高いレベルの競技会とすべく案内がありましたので奮って参加してください。

実施日 平成10年11月21日(土)
 ～22日(日)
 会 場 白馬村社会体育館複合施設ウイング21特設ウォール
 〒399-9301
 長野県北安曇郡白馬村大字北城2066
 長野県北安曇郡白馬

競 技 ①スポーツクライミング
 ②チーム対抗競技
 最終戦

種 別 ①スポーツクライミング
 ②チーム対抗競技
 最終戦

問合せ 長野県山岳協会副会長・競技部長
 TEL 030-1423416
 クライミングセンター
 TEL 026-284-8136
 井上大介
 ジャパンツアー事務局
 〒950-0002
 東京都立川市幸町5-8-26 マンション102号
 TEL 042-535-4404
 FAX

●文部省登山研修所友の会研究会「安全対策を考える集い」の開催案内
 平成10年12月6日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、「剣・立山・黒部の冬季登攀」と題して京都・左京勤労者山岳会副会長伊藤達夫氏、「1998年秋期サガルマタ南西壁遠征隊」と題して遠征隊長の松木憲親氏の講演と、「安全対策―確保技術を中心に―」をテーマにしてシンポジウムで安全対策を考える集い開催の案内がありましたので会員及び興味のある方はご参加ください。

申込先 〒930-1405
 富山県中新川郡立山町千寿ケ原
 文部省登山研修所友の会事務局宛
 TEL 0764-8211211
 FAX 0764-811534
 平成10年11月20日(金) 必着
 申込締切 必着
 申込方 郵便はがき(またはFAX)に総会・研究会の出欠の有無、住所、氏名、電話番号(FAX)を明記。

お知らせ

●富山県山岳連盟創立50周年記念誌「太刀の嶺高く」発行
 創立50周年を振り返り一つの区切りとして、立山開山から主に山岳信仰によって栄えた富山県に於ける登山界の推移を克明に整理されているのは興味深く、先駆者達の登山に対する気概が伺え、貴重な文献と云えよう。

連盟の足跡では、幾度もの再編の中で初の3,000米級の山岳での国体でみせた団結によって体制整備の充実が図られたこと、登山人口の増大と遭難事故の多発、特定地域の危険区域の定め、登山条例の制定とそれぞれの活動が記されている。

事故に対する考え方について昔と現代の違いを分析している『山岳警備隊から見た山岳遭難の今昔』では辛口の警鐘を鳴らしているが必見のページであろう。
 2000年開催の富山国体への準備状況についてはやがて来る新潟国体への取組みにも参考となろう。
 平成10年3月発行

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)